

## 平成30年度第3回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 平成30年7月24日(火)14:00～17:00

2 場 所 ハピネスふくちやま会議室1(3階)

### 3 出席者

委員	青山委員長、大久保委員長職務代理、菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	渡辺室長、大橋次長、大槻主査、中田囑託
福知山公立 大学	井口学長、富野副学長、矢口教授、芦田教授、山本事務局長、竹友事務局次長、内田GM、外賀AM、矢野

### 4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 平成29年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について	【資料1】【資料2】により業務実績評価の進め方等を説明。
2	意見交換・質疑等	<p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■具体的な記述が増えており、昨年度より随分改善されている。ただし、計画設定が漠然としている年度計画が少なくない。</li> <li>■地域連携が福知山公立大学の肝であると考えられるため、学内における地域連携の位置づけを体系的に表すポンチ絵があればわかりやすい。</li> <li>■年度計画の実施状況は読み取れるが、中期目標、中期計画、年度計画との関係が読み取りにくい。</li> <li>■実施状況の記述内容は、教育現場に携わっている人であればわかるのかもしれないが、そうでない人にとっては難しい言葉が多い。もう少し誰もがわかりやすい記述をお願いしたい。</li> <li>■今後は、目標に対しての達成度を示すなど、評価しやすい記述をいただくよう改善いただきたい。</li> <li>■1年で達成できる目標もあれば、複数年かけてできないと達成できない目標もある。それぞれの計画の実施状況の書き方を工夫いただきたい。</li> <li>■簡潔すぎる年度計画が見受けられるため、もう少し具体的な年度計画を設定いただきたい。また、ある程度の目標値を設定いただく必要がある。</li> </ul>

		<p>■地域連携に学生がどのように関わっていくのかをもっと明記してほしい。地域連携を行うことにより地域にどのような効果があったのかということだけでなく、学生にとってどのような教育成果があったのかなどを記述いただきたい。</p> <p>■地域連携は、職員の協力がなければ成り立たない。職員はサポートするだけでなく、大学運営の主役の一人だと思って取り組んでいただきたい。</p> <p>■事務職員数15人は通常業務を行うための人数と捉えているため、新学部設置準備業務を行っている現状を鑑みると、現行の人数では厳しいのではないかと。新学部設置準備業務に関わる事務職員の負担はかなり大きいと思うが大丈夫か。</p>
--	--	---

## 5 次第

- (1) 開会挨拶 青山委員長
- (2) 事務局挨拶 渡辺市長公室長
- (3) 事務局説明

【資料1、2】により業務実績評価の進め方を説明。

(青山委員長)

- 委員の皆様には、業務実績報告書を事前評価いただいたが、評価のポイントや評価をされるうえで感じられたことなどをそれぞれ一言いただきたい。

(委員)

- 昨年度よりも随分改善されている。ただし、計画設定が漠然としている年度計画が少なくない。
- 平成31年度以降の年度計画には、できるかぎり数値目標を設定いただきたい。その際、例えば研修等を○回開催したというだけではなく、全教員のうち何%出席したという記述があれば評価しやすい。目標設定に対する達成度がわかるような記述をお願いしたい
- 地域連携が福知山公立大学の肝であると考えため、学内における地域連携の位置づけを体系的に表すポンチ絵があればわかりやすい。

(委員)

- 年度計画の実施状況は読み取れるが、中期目標、中期計画、年度計画との関係が読み取りにくい。
- 実施状況の記述内容は、教育現場に携わっている人であればわかるのかもしれないが、そうでない人にとっては難しい言葉が多い。もう少し誰もがわかりやすい記述をお願いしたい。

(委員)

- 具体的な記述が増えており、昨年度よりも随分改善されている。
- 年度計画を実施することにより、中期計画、中期目標の達成にどのようにつながるかの視点で実施状況が記述されていないものがあったため、全体的に「3」以

上の評価をしにくかった。

- 今後は、目標に対しての達成度を示すなど、評価しやすい記述をいただくよう改善いただきたい。

(委員)

- どの項目も評点以上の評価は出しにくかった。
- 1年で達成できる目標もあれば、複数年かけてでないとならない目標もある。中期目標、中期計画の達成に向けて取り組んでいただきたい。
- できるだけ市民の方にできるだけわかりやすい言葉で記述いただきたい。

(委員)

- 計画内容が1行で記述されている小項目が見受けられる。一般的に年度計画はあまり詳しく書かない風潮があるが、それにしても福知山公立大学の年度計画は簡潔すぎるように感じるため、もう少し具体的な年度計画を設定いただきたい。また、ある程度の目標値を設定いただく必要がある。
- 地域連携の位置づけを体系化したポンチ絵があれば便利という意見に同意。
- 地域連携と学生との関わりが読み取りにくい。地域連携を行うことにより地域にどのような効果があったのかということだけでなく、学生にとってどのような教育成果があったのかなどを記述いただきたい。
- 市民や学生に大学の目標等をわかりやすく示す必要があるため、今後はできるかぎりわかりやすい表現で記述いただきたい。

### 福知山公立大学入室

#### (4) 議題：平成29年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について 福知山公立大学ヒアリング (⇒は大学回答)

(委員)

- 年度計画 16・91・122 大学認証評価で一番苦勞された点を教えていただきたい。  
⇒前身の成美大学とはカリキュラムや経営方針等が大きく異なっていたため、連続性がなく、そしてエビデンスが少ない中、成美大学と現在の福知山公立大学を繋ぐ作業が非常に難しかった。

また、成美大学において前回大学認証評価を受審した際のデータが全て揃っていなかったため、データを抽出し、福知山公立大学と連続したものにする作業が難しかった。

(委員)

- 一般的に言えば、大学認証評価を受審し、適合判定を受けることは当たり前のことであるが、見えない御苦勞があったのだと理解した。
  - 次回の認証評価に向けて、常日頃のデータの積み重ねが大切になってくるため、今からデータ収集に取り組んでいただきたい。
- ⇒大学認証評価は法律上7年に1回だが、本学は7年後ではなく、もう少し前倒しして、新学部の完成年度の前を目途として挑戦することを検討してもいいかもしれない

いと考えている。

(委員)

●年度計画 No. 5 学生プロジェクトの5つのプログラムの内容を教えてほしい。

⇒5つのプロジェクトの概要を説明

(委員)

●年度計画 No. 55 「北近畿地域のシンクタンクの役割を果たせるよう、全学的な取組体制を検討し、体制を構築する。」の全学的な取組体制が北近畿地域連携会議であると理解してよいか。

⇒北近畿地域連携会議は大学の附属機関ではなく別の組織であり、そもそも全学的な取組体制を意識した組織ではない。地域連携をするうえで重要な相手方となる約46の諸団体で構成される組織であることから、できるかぎり全学的に北近畿地域連携会議に携わり、展開していきたいと考えている。なお、北近畿地域連携センターが北近畿地域連携会議の事務局を担っており、北近畿地域連携会議の様々な研究会にも参画している。これまでは学生が関わることはなかったが、今年度からは北近畿地域連携会議の研究会に関わってもらおう予定である。

(委員)

●年度計画には体制を構築すると書いてあるのに、体制を構築する作業のことは何も書かれていない。したがって、北近畿地域のシンクタンクの役割を果たせるよう、大学としてどのような体制を構築したかを書くべきであり、北近畿地域連携会議を体制づくりに活用したという記述があればわかりやすかった。

(委員)

●年度計画 No. 72, 73 外部意見をどのように大学運営に反映したのか。

⇒外部意見を取り入れ、次回以降の活動に反映するよう努めている。例えば、学生生活動報告会であれば、昨年度のアンケートにおいて学生の声をもっと聴きたいという意見があったため、今年度は学生プロジェクトを取り込むことにした。

⇒地域の方との交流を始めたばかりであるため、まだ市民の皆様からは「このように経営改善を行っていただきたい。こういうカリキュラムを作してほしい」などの意見は出ていない。経営改善に向けて市民の皆様と論じるにはまだ時間が浅い状況である。

(委員)

●年度計画 No. 72 に「広く市民、各種団体との交流を図る。」とあるため、計画の実施状況には交流をして、その結果を法人経営・大学運営にどのように活かすのか書き込んでいただく必要があると考える。様々な活動をされていることは評価できるが、それが法人経営・大学運営に活かされていることが確認できないと、法人自己評価どおり「4」とすることは難しい。

⇒平成28年度は、市民、各種団体等から出される本学への協力要請に対し、北近畿地域連携センター事務局でしか対応できていなかったため、平成29年度からは、1週間ごとに全教職員に周知するよう図り、全学的に取り組むようにした。

(委員)

●年度計画 No. 114 平成30年5月1日時点において、前年同月比で専任教員が2人減となっているが適正な配置ができているのか。

- 新学部設置に向けて施設整備が重要事項となるが、現在の進捗状況は。

⇒平成30年7月に1人着任済、9月に2人着任予定であるため、人数は確保できる予定である。

また、新学部設置に向けて、現在、校舎の設計に着手している。ただし、体育館や学生会館などが無いことが今後の課題と認識している。

(委員)

- 年度計画 No. 66 全学協議会の内容を教えてほしい。私のイメージとしては、理事長をはじめとする法人執行部と法人教職員が安定的かつ機動的な法人経営・大学運営に向けて意見交換を行う場と思っているのだが、FD研修や授業評価アンケートの分析に関する研修会は全学協議会と言うことは難しいと思う。年度計画に対する計画の実施状況欄にあえて何かを記載されるよりは、できていないことはできなかつたと記述したほうが望ましいと考えるのだが、私の認識が異なるのであれば教えてほしい。

⇒「地域協働型実践教育」は教員、職員が力を合わせてできるものである。そのため、教員、職員共に地域協働型実践教育に対して共通認識を持つ必要がある。したがって、地域協働型実践教育を実施するにあたり開催した様々な教職員合同の研修会を全学協議会として記載させていただいた。しかしながら、全学協議会は意思決定の場になるものではない。また、全学協議会に学生がどのように関わるかが課題。

(委員)

- 各所に「地域連携」が書かれており、地域連携への努力が伺えるが、地域連携に対する学生の関わりが伝わってこない。
- 一部のプロジェクトについては学生の参加もあるようだが、教員だけでなく、学生がいかに地域連携に関わることができるかが重要である。

⇒現在、学生は北近畿全般に出ることはできているが、カリキュラム等の関係により大人数で行くことは難しい。ただし、講演会の手伝いを兼ねて学生アルバイトを5～8人程度募っており、学生にとっての学びの場となっている。将来的には学生にも講演会の企画運営をできるようになってもらいたいと考えている。

(委員)

- 地域連携の場に色々な形で学生が関わる必要がある。また、教員だけでなく職員がいなければ地域連携は成り立たない。私は、教員、学生、職員、クライアントの4者が協力しなければ良きプロジェクトラーニングができないと思う。
- 職員はサポートするだけでなく、大学運営の主役の一人だと思って取り組んでいただきたい。

⇒平成30年度は、正規職員ではないがコーディネーターを配置し、地域との連携を行っている。

(委員)

- 私は、事務職員数15人は通常業務を行うための人数と捉えているため、新学部設置準備業務を行っている現状を鑑みると、現行の人数では厳しいのではないかと。
- 新学部設置準備業務に関わる事務職員の負担はかなり大きいと思うが大丈夫か。健全な業務を行うためには適正な職員配置を行う必要があるのであれば、事務職員の現状をお聞かせいただき、必要であれば評価委員会として適正な職員配置を

いただきたい旨のコメントを残すことを検討したい。

⇒事務職員15人というのは、福知山公立大学設置にあたって福知山市が財政シミュレーションする際に、前成美大学の事務職員人数をベースに定めたものである。

「知の拠点」整備構想策定にあたって作成された財政シミュレーションに基づく、新学部設置にあわせて事務職員数は徐々に増員していく計画となっているが、新学部設置準備業務をしている現状での手薄感は否めない。

⇒現在の人員で通常業務及び新学部設置準備業務を行うには苦勞しているということが事実である。

(委員)

- 年度計画 No. 26 学生の懲戒事案発生を予防するための具体的な取り組みがあれば教えてほしい。

⇒入学した学生には、学生生活全般に伴う注意すべき事項を入学初年時のオリエンテーションをはじめ、各年度の前学期、後学期のオリエンテーション等において伝えている。また、警察及び消防の協力を得て、福知山における防災問題、避難場所、交通マナー等について指導いただいている。その他にもハラスメント問題等も含めて一応の説明をしている。こうした取り組みをしたうえで、交通事故2件、相談5件等が発生したが、懲戒処分に該当する案件はなかったため、自己評価を3とした。

⇒平成29年度に学生の懲戒に関する規程を策定し公開している。学生に関する事件・事故については、学生対応をどのようにしたか、指導内容を書き留めるようにしている。

(委員)

- 今後はそうした具体的な取組内容を記述いただくようお願いしたい。

(青山委員長)

- 本日、ヒアリングをする前に委員間で意見交換をした内容をお伝えさせていただきたい。
- 昨年度に比べて計画の実施状況がわかりやすく改善されている。その一方で年度計画がシンプルすぎて評価することが難しい項目があったため、今後は工夫していただく必要がある。また、単年度で達成できる年度計画、複数年かけて達成する年度計画があると思うので、それぞれの計画の実施状況の書き方を工夫いただきたい。
- 地域連携に学生がどのように関わっていくのかをもっと明記してほしい。地域連携の位置づけを示す体系図があるといいのではないか。
- 業務実績報告書及び評価書は市民に公開されることにため、もう少しわかりやすい言葉で記述いただきたい。

⇒地域連携の考え方の中心は地域協働型実践教育であり、授業そのものが地域連携である。まだ開学して3年目ということもあり、地域協働型実践教育の成果が見えてくるのはこれからであるが、その成果が見えてきたときに、地域連携の姿が市民に見えるようになるのではないか。

また、学内において地域経営学研究会とは別に本年度研究活性化助成金で地域協働型教育に関する研究会を発足させ、「地域協働型教育とは何か」という研究も行っている。

来年度の評価委員会では地域協働型実践教育を始めて3年間の成果を述べたい。

#### 福知山公立大学退室

#### (5) 評価委員会まとめ

##### 業務実績評価

(青山委員長)

【議題1】業務実績評価について振り返りたい。本日の福知山公立大学への意見聴取内容等を踏まえて、業務実績報告書159項目について、評価委員会としての評価をつけたい。

【資料2】評価結果一覧表を御覧いただきたい。法人自己評価と委員評価が一致している小項目は、この評価点を評価委員会としての評価として決定したいと思うが、よろしいか。

(全委員)

異議なし。

(青山委員長)

それでは、法人評価と異なる評価をされている小項目を中心に1つずつ見ていくこととする。

#### 【資料2】のとおり各小項目を評価

#### 6 その他

特になし

#### 7 閉会

(事務局)

本日の評価結果、意見等を踏まえ、事務局において速やかに評価書原案のたたき台を作成し、委員の皆様にお届けさせていただくので御確認いただきたい。

以上